

(株) 竹信牧場 農林水産大臣賞受賞  
—平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会—

平成27年11月12日東京都日比谷図書文化館において平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会が開催されました。当協会推薦の笠岡市カブト中央町(株)竹信牧場代表取締役竹信茂治氏が「干拓地におけるトウモロコシ二期作生産による大規模酪農への挑戦」と題して発表され、審査の結果、最優勝・農林水産大臣賞を受賞されたので、その概要をお知らせします。

○経営・活動の推移

(株)竹信牧場は笠岡市・笠岡湾干拓地に平成6年、広島県東広島市から入植され、ホルスタイン種経産牛100頭の経営から再スタートを切られました。以後、畜舎、搾乳施設の増築、乳用牛の増頭を経て、現在では経産牛470頭の県下屈指の大規模酪農経営を営んでおられます。

また、平成23年1月には法人化され株式会社・竹信牧場としてより安定した経営に努められています。

○経営管理・生産技術の特色

(株)竹信牧場の経営の最も特筆すべき点は二期作トウモロコシ生産による自給率の確保です。二期作トウモロコシの生産にあたっては、平成15年干拓地内の畜産農家5戸で立ち上げた「干拓コントラ」を中心に自作地はもとより、県粗飼料生産基地の一部を借地し、干拓全体では延べ400ha、うち竹信牧場では95haを作付けしており、乳飼比42%、飼料TDN自給率31%、経産牛1頭当たり10,000kg牛群の経営を確立されています。また、27年度ではさらなる自給率の向上を目指してアルファルファの栽培にも取り組んでおられます。

また、良質堆肥の投入と適切な肥培管理により収穫した高品質粗飼料の給与と飼料設計により1万キロ牛群を維持されています。

○新技術の導入と環境への配慮

平成26年度には牛舎等の屋根を有効活用した太陽光発電システムを導入、牧場必要電力624,000kwに対して825,000kwを発電、売電収入

による所得向上とパネル設置による牛舎内遮熱効果も得られています。また、敷地内牛舎周辺には芝を植栽し、夏場の農場内の高温防止に対処されています。

○生産基盤の充実

平成24年には岡山県下で第1号となる乳用牛担保のABL(動産担保融資)について日本政策金融公庫の設備資金及び運転資金の融資を受けフリーバーン牛舎の増築と初妊牛の導入を行い、生産基盤の整備、充実を図られました。

○ゆとり酪農の創出と雇用の維持

総頭数700頭を超える乳用牛の飼育・搾乳管理のため17名の従業員・研修生を雇用、ローテーション作業制による1日3回搾乳と月休6日の柔軟な休暇制度の導入や各種保険制度を取り入れ、従業員の勤務年数の長期化を図っておられます。また、おかやま酪農協や関係機関の協力を得て従業員や研修生を対象に搾乳技術セミナーを開催し、管理技術の向上と併せ乳質の向上にも努力されています。

○今後の経営計画

平成28年度にはより一層の搾乳作業の効率化を目指して、畜産クラスター事業による搾乳施設(ロータリパーラー)の整備を計画されています。

今後も、二期作トウモロコシを主体とした経営の充実に努め、着実に質量ともにレベルアップできる経営を目指しておられます。



〈(株)竹信牧場・竹信 茂治社長とご両親〉